



「素晴らしい飯田の街づくりのために」 地域ぐるみ環境 ISO 研究会 副代表 大長 眞



オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)
副社長兼飯田事業所長

皆さん、はじめまして。私はオムロンオートモーティブエレクトロニクス株式会社 飯田事業所長を担当しています。オムロンに入社して35年、そして3年前に飯田に赴任してきました。その印象は四方アルプスに囲まれ、四季それぞれの山並みが美しく、春から夏にかけての果実を実らす花の美しさ、毎日感じている水の美味しさ、などなど、心を豊かにしてもらえる街だと思いました。

次に我が社の紹介をします。

我々は名前のお通り、カーメーカー様に自動車の部品を開発・生産している会社です。そして【安全・安心】【便利・快適】【環境】の製品を社会で使っていただき、よりよい社会をつくることを使命に事業活動しています。【安全・安心】では交通事故を防止するためや高齢の方の運転を補助する車外センサーや運転手の様子(疲れや眠気など)を察知するセンサーを開発しています。また、環境負荷低減するための【環境】製品では、交差点などでアイドリングストップした時の電源製品や車の電動化に寄与

する電動パワーステアリングの製品で自動車から排出されるCO₂の低減に貢献しています。このように我々では創業者立石一真の思いであるぶつからない自動車の実現と電動自動車の普及することで社会・地域に貢献していきます。

また、同時に飯田事業所としても開発・生産活動している中で、省エネ活動を全社員あげて取り組んでいます。クールビズの取り組みをはじめ、生産活動における省エネ設備の活用、リサイクル活動など実践しています。また、この活動を世界中にある8拠点の工場にも、その活動を手本に環境への取り組みを展開しています。まさに、事業と事業活動の両輪で環境の取り組みを実践しています。

我々は社会に貢献することのひとつに【地域社会に貢献する】ことも大切にしています。飯田事業所では、初夏の天竜川の清掃活動や世界中のオムロン社員が参加するボランティア活動で地域社会と一緒に、環境活動を実践しています。飯田という街を環境活動から活性化すること、美しい街づくりで多くの旅行者が飯田にきてもらい、感動してもらうことを大切にしたいと考えています。この【地域ぐるみ環境 ISO 研究会】で多くの会社・団体、市民の方々が集まり、それぞれの立場で情報交換しながら、環境活動することで、その思いを少しでも広げることができればと思います。

さて、私自身飯田に来るまで様々な土地に住んでいました。大都会にも住みましたが、三重県、熊本県、滋賀県、そして飯田、大自然の美しさに多くの感動をもらいました。雄大な太平洋、琵琶湖、

透き通るような空気を吸い込んだ山・川などなど。その度に日本にこんなところがあるんだ、と。

今でも目に浮かびます。一方、台風・大雨・大雪のような大自然の猛威や人間が犯した公害、歩いている時の直射日光の強さ、これまで人間が豊かなになるための贅沢の長年の積み重ねが、逆に人間に試練を与えているのではないのでしょうか。これから将来、美しい日本を見つづけるために、そのことが人々の心を豊かに、そして幸せになるために、一人ひとりができることを実践すること、その積み重ねが大切だと思います。

最後に、【地域ぐるみ環境 ISO 研究会】の今後の活動に対して、我々飯田事業所はその一員として、素晴らしい飯田の街づくりのために、積極的に参画していきたいと考えています。

「2017冬の一斉行動週間」 参加をお願いします

期間 2月13日(月)～19日(日)
取組内容 A・B・C・Dの4行動
A…ノーマイカー
B…20℃を超えない室温
C…冷蔵庫の設定を「弱」に
D…タイヤの適正な空気圧
それぞれが「取組カレンダー」で「報告書」は3月15日(水)までに

研究会はCO₂排出量削減を目的にした「2017冬の一斉行動週間」を実施します。事業所内の小さな取り組みが私たちの地域全体の取り組みに広がりますよう、多くの皆さまにご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。研究会のホームページに取り組みの帳票類を載せてあります。ご利用ください。

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機(株) 研究会事務局
toshi.yuki-sawawaragi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「低炭素から脱炭素へ」 「地域ぐるみで新たな挑戦」



2月8日(水) 18:00~19:30 飯田市役所で「低炭素から脱炭素へ」「地域ぐるみで新たな挑戦」という環境イベントが地域ぐるみ環境ISO研究会と飯田市が主催、南信州広域連合が共催で行われました。

このイベントは研究会設立20周年記念、飯田市役所 ISO 14001 自己適合宣言移行(2003年1月23日)、飯田市「環境モデル都市」認定(2009年1月23日)を記念するもの。

基調講演は NIT データ経営研究所 渡邊敏康さん、早稲田大学社会科学総合学院の黒川哲志さんの2人。



渡邊さん黒川さんからの基調講演、そのまとめとして3点が指摘されました。①飯田市には、「地域ぐるみ環境ISO研究会」活動に取り組む企業と「おひさま進歩」の太陽光発電事業などに参加する市民がいる。これらの高い環境意識を持つプレイヤーのネットワークが次のチャレンジを支える(社会関係資本)。

②小規模な町村レベルで脱炭素社会の構築の成功例がみられるが、中規模都市で脱炭素社会を構築した例はなく飯田がソーシャルイノベーターとして、新しい社会構造を生み出すことが期待されている。

③ICTや蓄電システムなどの整備により再エネ電力の安定化とそれを前提とした増産を行うこと、住民だけでなく企業も含めて再エネ電力の地産地消を推進し、余剰分を外部に販売して収益を生むことを確保すべき。これによって、脱炭素社会が経済的持続可能性を獲得し、飯田市版社会イノベーションが実現される(これこそが飯田市の課題)。

研究会代表・多摩川精機社長 参加事業所飯田市役所・市長

基調講演での問題提起を受け「新たな挑戦、それぞれの役割」のパネルディスカッション。パネリストは2人。地域ぐるみ環境ISO研究会 関重夫、新代表(多摩川精機株)代表取締役社長と研究会参加事業所飯田市役所の代表、牧野光朗飯田市長(南信州広域連合長)。コーディネーターは基調講演の黒川教授。いきなり「脱炭素へ」の戦略という質問が2人に投げかけられ、緊張した30分を90余人が共有しました。



関代表から、20年間務めた前代表から引き継ぎプレッシャーも大きい一人で頑張らず、これから脱炭素に向けどうすればいいかを皆さんと一緒に考え一つひとつ取り組んでいきたい。個人的にはこの飯田市を外から来てくれる人に優しい街にしたい。その具体的なプロセスのひとつとして脱炭素を考えたい。社会変革をもたらす電気自動車がこの飯田市でスマートコミュニティのモデルシティと扱われることは遠くないと。



牧野市長から、トップランナーの今日の飯田市の環境の取り組みは研究会はじめ地域の成果そのもの。環境に限らず当地域の様々な分野での革新的な取り組みが注目されている。一人の百歩ではなく百人の1歩の継続により進められているのが強み。

環境モデル都市もチャレンジな目標ながら脱炭素への挑戦も自覚を持ち地域の合意のうえに進めたい。ただレジ袋削減のように脱炭素は地域全体で広めていけば可能だ、と。

地域ぐるみ環境 ISO 研究会 実務者会・事業所見学会



環境イベントのあったこの日、研究会の実務者会が多摩川精機株本社・第1事業所 第2会議室で行われました。内容は、20周年記念式典の感想と「環バック」の贈呈、省エネ診断事業「いいこすいいだPJ」、「南信州いむす21」の対応、2016秋の一斉行動週間の集計結果、2017冬の一斉行動週間の取り組み、次年度の事業計画、環境関係の賞への応募。会議は約1時間、冒頭に関代表から熱い挨拶がありました。



会議に引き続き、2班に分かれ多摩川精機株事業所内の見学会、敷地奥に整備されている歴史館も説明を受けました。多摩川精機株だけに止まらずこの地域の歴史を歴史館から学ぶことができました。



次号は研究会20周年記念事業として飯田・下用町高校8校を今春卒業する1500人余に贈呈したオリジナルのエコバッグ「環バック」の特集です。2月13日、飯田女子高校3年生全員への贈呈式を最後に8校全てに出向いて贈呈が終了しました。この「環バックの企画・発注・作成、配布をプロジェクトとして担当したのは研究会の実務者女性6人です。この環バックを20周年記念事業のテーマ「地域ぐるみ 次へ!」でどのように仕掛けるのか、何を感じたのか担当の6人の皆さんからの声をお届けします。

【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshi.yuki-sawayanagi@amagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



オリジナルの「環バック」 旅立つ高校3年生 1500人に



飯田風越高校



飯田OIDE長姫高校



飯田高校



阿南高校



松川高校



阿智高校



下伊那農業高校



飯田女子高校

研究会実務者の女性6人で 企画・発注・作成 配布を担当

研究会の20周年記念事業として飯田下伊那の高校8校をこの3月卒業する1500人余にオリジナルのエコバッグ「環バック」を贈呈しました。

12月13日、20周年記念式典で飯田OIDE長姫高校の代表にセレモニーとして贈呈した後、12月15日から2月13日まで8校全てに出向き6校は代表に2校は全員に贈呈しました。

この「環バック」事業をプロジェクトとして担当したのは研究会実務者女性6人。「環バック」にeco bagとcome back、「旅立っても忘れなで、ふるさと飯田へ戻って来てほしい。」というメッセージを入れました。



環 今回、私はこの「環バック」贈呈事業の担当リーダーとして「環バック」の制作から贈呈まで全ての工程に関わってきました。贈呈先はこの春に高校卒業予定の学生。バッグの色・素材の選定から、メッセージ制作、高校側への趣旨説明、人数の把握や配布方法検討など、“どうしたら私たちの想いを伝えられるのだろう”と何度も打ち合わせを重ねました。今回の配布完了とともども無駄でなかったと改めて感じています。私自身が高校へ訪問し、贈呈式を行うのは2校ですが実際に受け取ってくれた学生の反応や声を聞くことができ、沢山の充実感を味わうことができました。8月に担当メンバーの顔合わせからおおよそ6ヶ月という時間。この事業に携わり活動し、誇りに思います。【木下喜絵】

バック ゼロから始まったこの企画、女性6人+1の知恵が半年後に、黒のエコバッグ「環バック」に、個々の思いが一枚のメッセージとなり手元には届きました。手のひらに乗る小さなバッグですが、手に取った時の感動と何とも言えない充実感はこのチームで共感できる宝物と思い大切にしています。そして、次はこのメッセージの思い、研究会の思いを卒業生に伝えること、何とか全員の手が届くことが、課題となりました。贈呈式では生徒代表に何とかこの気持ちわかってほしいと緊張しながら、言葉の一つひとつを大切に、思いを伝えました。そして生徒からの言葉は「大切に使います。進学しても戻ってきます。」「飯田で店を始めた。」と帰飯の思いが強いことびっくりし、この事業に携わり卒業生の気持ちが聞けたことに胸が熱くなりとても幸せを感じました。何年か後、この子が研究会に来てくれたらと願います。【唐沢節子】

い 今回、女性実務者による「環バック」制作から記念イベント、高校への配布とリーダー木下さんの元、また市役所的小林さんのご協力を得て無事プロジェクトが終了したことに安堵しています。私が担当した下伊那農業高校では担当の先生が色々ご配慮くださり、校内から気持ちの良い挨拶がされて、生徒会長さんの「僕たちは今は直接環境に良い活動はできないけれど環境に悪影響を与え

ないことではできない」との御礼の言葉が印象的でした。お忙しい中、同行していただいた皆様にも感謝申し上げます。このプロジェクトを通して、研究会の歴史は地域の環境活動の原点であったこと参加企業の枠を超えた結びつきの強さ、また共有した時間の確かさを感じることができました。環バックメンバーの皆様、お世話になりました。【桐生雅子】

い 環バックを制作するにあたり、メンバーで何度も会議を重ねて、伝えたいメッセージやデザインの検討などをしてきました。話し合った内容が少しずつ形になっていき、完成した時の喜びは忘れられません。同時に高校3年生は環バックを渡した時の反応はどうか、期待と少しの不安を持っていましたが、贈呈に高校を訪問した際、地元や自然を大切にしてくれるという言葉ももらったので、作ってよかったとホッとしました。今回、「環バック」メンバーになり、贈呈を通じて多くの人が環境に関心を持っていることを感じることができました。【神田知誉子】

か 将来の選択肢の一つとして、地元へ戻ることを考えてもらいたい。そんな思いから、研究会の20周年記念事業として、「環バック」とメッセージを作成し、飯田下伊那地域の高校3年生へ配布しました。実際に高校へ配布に行った際は、「エコバッグを使用して環境を大切にしたい」「地元で働くのががんばりたい」といったコメントを高校生から頂くことができました。4月からそれぞれの道へ進み、忙しい毎日になっても、「環バック」を見て、受け取った時の気持ちや、私たちからのメッセージを思い出してくれたいと思います。一緒に「環バック・メッセージ」を作成した皆様、贈呈式にご参加いただいた実務者の皆様、ありがとうございました。【藤原由里絵】

あ 高校生の皆さんがこの「環バック」を受け取ったときどんな思いを抱くのかを楽しみにしつつ、どうしたら私たちの思いを分かりやすく伝えることができるのかを考えながら作成のお手伝いをさせていただきました。エコバッグは日常生活で使える身近なものですので、ぜひ普段の買い物のお供としてお使いください。このような素敵な企画に参加できました本当に嬉しく思います。【廣谷祐佳】



木下さん、唐沢さん、桐生さん、神田さん、藤原さん、廣谷さん

記念式典でスクリーンに研究会20年の振り返りを見たとき環境イベントへの参加など外向けの活動が最近減っていることを寂しく感じました。担当者として「環バック」の取組は感動で高校生への問いかけになったと信じていますが本音の反応は不安です。研究会からのメッセージだけでなく、もっと多くの地元企業からのアピールもできる「環バック!次へ!」と続くことが私たちメンバー全員の強い願いです。(2/27 談)

【ご意見、お問合せ】、【お問い合わせ】
沢柳俊之(多摩川環境機軸) 研究会事務局
toshi.yuki-sawayaragi@tamagawa-sei-ki.co.jp
小林祐昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshi.aki@city.iida.nagano.jp



ISO 14001:2015 規格対応 環境マニュアル勉強会

環境マネジメントシステムの国際規格 ISO 14001「Environmental management systems- Requirements with guidance for use」が改訂され1996年、2004年に続く第3版として2015年9月15日に発行されました。

これを受け日本工業規格として「環境マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引」JIS Q 14001が2015年11月20日に発行されました。「地域ぐるみ環境ISO研究会」は研究会全体として参加事業所として「環境ISO」にこだわる団体、規格改訂対応は基本の取組といえます。



研究会は2015年版の規格ISO 14001(JIS Q 14001)に対応した環境マニュアルの勉強会を今年の1月～2月、研究会参加事業所の担当者を対象に計4回開催しネットを利用して遠くからの参加もありました。テキストは多摩川精機㈱と飯田市役所の環境マニュアルそのもの、それぞれの歴史と運用を反映した第37版と第30版です。悩みは新しい規格要求事項とのギャップをどう補ってシステムを構築するかです。研究会は異業種の集まり、規模も異なり勉強会参加者の判断基準はそれぞれの環境マニュアルでしょうが組織の事情を理解した上で様々な視点で検討は進められました。

安全に自由に率直に議論できる場 違和感、リアリティ

研究会設立20周年を契機として交流が続く早稲田大学の松岡俊二教授から東日本大震災から6年に関連してメッセージが届きました。

今年の第6回原子力政策・福島復興シンポジウムを開催するかどうかずいぶん迷ったものの、今年もやって良かったと改めて思ったとありました。

昨年第5回シンポの閉会の挨拶、研究会活動にも通じる内容、物事の本質は同じだと感じ紹介します。第6回の挨拶も気になりますが…。

様々な議論がある中で安全に自由に率直に議論できる「場」を設けるということはやはり意味があるのだろうと改めて思った。福島の方々から、東京に対する違和感についての話があつが私としては違和感こそがむしろ大事なのではないかと考えている。こうしているような立場の参加者が集まって違和感のない社会は不自然なのだと思う。したがって、違和感があるということ自体はネガティブに感じたくはないと考えている。しかし違和感というものが原子力や福島復興に関する問題の認識に対するリアリティの違いから生じるものなのだとしたら、何か我々にとってのリアリティなのか、しっかり考えなければいけないのだろうと思う。

当然ながらそれぞれの人が生きている中にしかりリアリティはないわけで、福島で生きている人々と東京で生きている人々にとってのリアリティは違うというのは仕方がないことでもある。ある面では、我々の社会が多様であるということはある程度保障していることにもなる。そういう意味では、違和感、リアリティというのは非常に大事にしていきたいと思う。

ただし、そのことが共通の未来を議論していくとき、将来を考えるとときに、決定的に不都合になる、あるいは不和になる、社会的なコストが発生してしまうと、こうであれば、それはしかり議論して合意できることを作っていくかなければならない。…誰かの手に将来、未来を任せたら瞬間に社会は選択を間違っていくだろう。福島の将来は確実に福島の人々が決めていくしかない。我々は同じ社会の一員として福島復興をしっかりサポートしていくことが日本の未来を切り拓いていくことになるのだと思う。

福島の方々には、日々、こうした覚悟の中で活動され東京まで来て発言されているのだと理解している。そうした福島の人々の覚悟を受けて、出来る範囲のところで応援するのが東京で暮らす我々の役割であり、日本社会の未来は共通に担っていくかなければならない。

原子力政策や福島復興に関する議論をするたびにある種の「難しさ」に直面するが、それでも議論をする中でしか生まれてこないものもあるのだから、諦めずにしっかり議論していきたいと思っている。

「いいこすいいだPJT」 第35回会議で方向性

飯田市が、2009年に環境モデル都市に指定され、2005年比でCO₂排出量を2030年までに40～50%、2050年までに70%、削減する目標を打ち出しました。これを受け、温室効果ガス削減のためプロジェクトが研究会内に立ち上げられ、これが「いいこすいいだプロジェクト」です。

「いい」:Energy・Environmental、「こす」:CO₂「いいだ」:飯田から発信し、飯田が先導的に取り組む、名前にはそんな思いが込められ、メンバーを選抜して2010年9月にキックオフとなりました。ロードマップも作成され、モデル事業所の取組、省エネ事例集の作成、省エネ診断と活動は展開されてきました。



省エネ診断は2013年度から進められ、研究会参加事業所の全てに対して行われ、一定の成果を得ました。2015年版のISO規格改訂を踏まえ、地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」のシステム改善も必要となってきています。

設立20年を迎えた研究会、記念式典のテーマは「地域ぐるみ!次へ!」より具体的な活動についても検討が始まっています。まだまだ事務局の段階ですが「いいこすいいだプロジェクト」も研究会活動全体の中で次のステップへと見直しが必要です。

ボランティアな研究会の力量と担当者の負荷をも配慮して…。



【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ先】
沢柳俊之(多摩川精機㈱) 研究会事務局
toshi.yuki@sawayamagi@amagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



2017年2月の一斉行動週間 参加49事業所、5,372人



研究会は、年に3回の一斉行動週間を設定し、その取り組みへの参加を研究会参加事業所や研究会以外の事業所に呼びかけています。

「2017年冬の一斉行動週間」は2017年2月13日(月)～19日(日)の7日間、今回の取り組みは、4項目①ノーマイカー、②室温が20℃を超えないようにする、③冷蔵庫の設定温度を「弱」にする、④タイヤの空気圧を適正にする、というものでした。ノーマイカー以外は、その取り組み時期により変わります。49事業所、5,372人の参加でした。

研究会に参加する事業所全てが取り組んでいる訳ではないといった実態もあります。また、呼びかけの範囲や方法に課題も感じています。

取り組みに協力していただいた事業所からは「参加報告書」が届きます。報告を受けた事務局として集約するとそれぞれの参加人数や取り組みの件数といったその取り組みの広がりや規模などの数字が気になります。「参加報告書」には、お願ひした4項目の「取り組みを実践するにあたって、各自で工夫したことがあれば紹介してください」、4項目「以外に行った取り組み、ご意見・ご感想、メッセージなどありましたら、お願ひします」の欄があり、多くの報告が寄せられています。報告書のスペースだけでなく別紙として報告されるものもあります。地域の環境力を感ずる報告です。



報告で寄せられた工夫・意見 意識へのきっかけとして

「2017年冬の一斉行動週間」への「ご意見・ご感想」を紹介します。

研究会のホームページでは2016年秋の一斉行動週間に寄せられたものの詳細を掲載していますが、今後も「工夫」を掲載していきます。■指定された一斉行動期間中だけではなく、常に環境に対する意識を持ち行動しています。

■このような取り組みがあると、普段、環境をあまり意識していない人でも意識して活動できるので、定期的に行くと良いと思います。

■普段から取り組んでいる人、一斉行動の期間だけ取り組む人、年間通して取り組まない人、いろいろな人がいて取り組む意識には温度差が多くあると感じています。

■意識しないとなかなか取り組みません。良い機会になりました。

■通勤のノーマイカーは無理です。■事業所の立地上、相乗り以外の取り組みには難がありますが休日ノーマイカーで数が伸びています。

■一人ひとりの小さな行動こそが大切であると感じました。

■各自の小さな取り組みが大きな効果を生むと思うので、今後も継続していきたいと思います。

■こうした機会に家族でエコについて会話することで、家庭でもエコに対する関心が高まりました。

■電気ストーブを止め、薪ストーブを使用しています。CO₂削減に貢献できているのでしょうか？

■体調管理の観点から室温20℃の取り組みは実施しませんでした。

■風邪などで体調が悪く、ノーマイカー・室温調整の活動へ積極的に取り組みませんが、家庭での台所・風呂の水量に注視しました。

■積極的に取り組みたいと思う。

■実際に行動に移すことが大切。

■限りある資源を大切にしたい。

■常に温度や設定弱に気を配り、普段からエコを心がけています。

■着るものを工夫し、適正の温度でも暖かく生活できるようにしています。

■いろいろな取り組み方法があり、たいへん勉強になりました。

■これからも常にエコを意識した行動を心掛けていきたいと思っています。

■全体の取組み結果を公表する際、グラフなど図示できるものがあれば分かりやすいかなと思います。

研究会事業の「次へ！」 事務局会議で詳細を検討

研究会の事務局会議は、毎月行われています。研究会設立当時の6事業所の実務者により構成されているのが事務局会議。転勤や異動で事務局会議のメンバーもこの4月にずいぶん替わりました。研究会設立20周年記念式典は昨年12月13日に「地域ぐるみ！次へ！」をテーマとして行われ、今年は年間事業計画についても詳細に検討しています。

毎回、日程調整に苦慮しますので事業所代表者全体会の開催時期も固め、3回の一斉行動週間も確定しました。日程が決まりましたので早い準備や対応も求められます。

- ★環境月間一斉行動週間
6月1日(木)～7日(水)
- ★秋の一斉行動週間
10月20日(金)～26日(木)
- ★冬の一斉行動週間
2月7日(水)～13日(火)



研究会が構築し運用を支援し、審査をしているこの地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」。最上位の「南信州宣言」はISO 14001規格の2015年版改訂に合わせれば済みます。残り3つの「初級」「中級」「上級」への対応は、2018年3月の改定に向け、9月から検討を開始していくこととなります。各事業所でのシステム変更・運用のノウハウを「南信州いいむす21」の「次へ！」に反映させ改正します。



【ご意見、お問合せ】、【記号解除】
沢柳俊之(多摩川環境機構) 研究会事務局
toshi.yuki@sawayanagi.co.jp
小林梅太郎(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「副代表交代にあたって」 三菱電機(株)中津川製作所 飯田工場



丸林新副代表と田中前副代表

＜事業所の環境活動紹介＞

1974年換気扇生産の専用工場として操業を開始した中津川製作所・飯田工場は1998年には太陽光発電システムの生産工場を併設し、中津川製作所と一体となって環境に貢献する数々の製品を世に送り出してきました。同工場では、事業活動全体を通しての環境負荷低減にも積極的に取り組んでいます。

「環境 JIT 活動」と呼ばれるこの取組は、工場で使用する電力・ガスなどのエネルギー資源の節減はもちろん、排水の浄化処理や冷却水の循環利用による河川環境の保護、廃棄物削減・再資源化によるゼロエミッションの推進など、幅広い領域に及んでいます。一人ひとりの従業員が、日々の業務の中で環境への高い意識を持てるよう、電力やガスだけでなく、鉄、銅、アルミ・樹脂などすべての資源(原材料)について、「すべての改善活動はコスト削減はもとより、環境貢献にも直結するものである」との意識を現場に浸透させることで、「全員参加型」の改善活動につなげています。

＜前副代表：田中 詔秋＞

地域ぐるみ環境 ISO 研究会の副代表を務めて参りました田中と申します。この度、丸林新工場長に任期を引き継ぐにあたり、ひとこと、ご挨拶を申し上げます。

三菱電機(株)中津川製作所飯田工場へ2007年に赴任して10年が経過し、2012～2016年度の5年間に亘り工場長の任にあたりました。この間、地域ぐるみ環境 ISO 研究会については皆様のご支援により副代表を務めることができました。心から感謝申し上げます。

飯田市は行政と企業が相互に刺激し合うことで良好な関係を維持し、スピード感を持って活動に取り組む姿勢を感じておりました。

仕事から全国からのお客様を工場にお迎えする場面が多々ありますが、その中で、「飯田市が環境モデル都市に認定されていること」「弊所は環境配慮型設備機器システムづくりを通じて暮らしと地球の未来に満足と感動を与えることをコンセプトとして事業を展開していること」の2点を軸に環境への取り組みをアピールしているところです。

既に研究会にて取り組んで頂いている、ISO 14001 の2015年改正対応ですが、認証が目的ではなく、自社のために構築することが要求されます。事業の改善・改革を行っていくことの一つのツールとして、計画(. 組織の状況、リーダーシップ、計画、支援)、実施(. 運用)、検証(. パフォーマンス評価、改善という仕組みの基本構造が求められます。

今後も研究会にてPDCAのサイクルを回し、共有化を進めて頂ければと思っております。

＜新副代表：丸林 典矢＞

新たに副代表の務めを受け継ぐことになりました丸林と申します。私は1998年太陽光発電システム工場竣工に伴い、約6年間、飯田工場に勤務し、その後、中津川製作所・本社勤務を経て11年ぶりに飯田工場に戻って来ました。

飯田市は私達企業人から見ますと、全員参加型の「ボトムアップ」による取り組みが極めて盛んで、中核都市のトップランナーとして、存在感のある都市であると思います。

「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」は、全国的にも珍しく地域・行政・企業が一体となった地域ぐるみの環境活動を展開されており、これからの世の中を支えていく新しい枠組みとしてのポテンシャルを感じさせるものがあります。これまでの20年をベースに、次の20年を展望する時期に副代表を拝命することに、身が写り縮まる思いです。

微力ではありますが、これからも「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」が地域の力となれますようみなさまと一緒に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

多摩川精機株事務所の 環境内部監査、研究会で



今後も研究会にてPDCAのサイクルを回し、共有化を進めて頂ければと思っております。





6月3日(土)「竹宵まつり」 ライトダウンの一斉行動



今年の「竹宵まつり」「100万人のキャンドルナイトin南信州」が6月3日(土)に行われます。主会場は「りんご並木」どうるぎ星の森オートキャンプ場。第9回となるこの環境イベントは実行委員会主催で取り組み、地域ぐるみ環境ISO研究会も実行委員会に参加しています。

「でんきを消して、スローな夜を。」
「でんきを消してキャンドルを灯そう。
あかりの向こうにきっと何かが見えるはず。地球のこと、家族のこと、考えてみませんか。」チラシにはそんなメッセージが書かれています。「100万人のキャンドルナイトin南信州」の最新情報やお知らせ、次の公式ウェブサイトからどうぞ。
<http://akeyoi.ohi.sama-shi.npo.or.jp>

環境月間 一斉行動週間
6月1日(木)～6月7日(水)
それぞれの家庭で
ライトダウンを

研究会は今年度3回の一斉行動週間を設けて、地域内の事業所や市民の皆さんに多くの参加を呼びかけることにしています。6月は「環境月間」、6月5日は「環境の日」。研究会では6月1日から6月7日までの1週間を今年度最初の一斉行動週間とし、ライトダウンの取り組みを1行動としこの「100万人のキャンドルナイトin南信州」とタイアップすることにしました。

各家庭で環境を考える ライトダウンの一斉行動

「竹宵まつり」と呼ばれる「りんご並木」周辺では19時30分に照明が消されて、幻想的な竹宵の灯りが浮かび上がります。この中心市街地での賑わい創出のイベントとは別に、「キャンドルナイト」の原点に戻るライトダウンを各家庭で取り組んでもらおうというものです。

6月3日のイベントに合わせて、6月5日は「環境の日」に合わせて、1週間を通して、一斉行動により環境を考えるきっかけの各家庭でライトダウンを呼びかけます。



さて、「環境の日」、これは1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定め、日本では1993に環境基本法が「環境の日」を定めています。日本では、1991年度から6月の1ヶ月間を「環境月間」とし、それ以前は6月5日を初日とする「環境週間」とし様々な行事がこれまでも行われてきました。

今年の「環境週間」の標語、なかなか見つけられずいろいろ方に調べてもらったところ、標語ではなく次のキャッチフレーズでした。「人といきものが共生する未来へ」。昨年のは「考える 未来のため 地球のため」。環境は未来とつめりこんな大きなテーマとなっています。

ISO 14001の2015年版改訂でも環境保護概念の拡張は主な改正点のひとつです。これまでのように組織と環境とは一方的な関係ではなく相互に影響を与え合う関係としています。環境の課題もこれまでの「汚染の予防」だけではなく「持続可能な資源の利用」「気候変動の緩和・気候変動への適応」「生物多様性・生態系の保護」へと拡張されています。

今年も「みどりのカーテン」 アサガオの種の配布から

今年も研究会として、地域での緑のカーテンの取り組みを進めるため、アサガオの種を配布します。昨年配布した種は、市役所B棟の南側で育て収穫した種でしたが、今年配布する種は、市役所C棟の東側で昨年育て収穫した種です。

緑のカーテンの作り方は、環境省「グリーンカーテンマニュアル」に詳しく紹介されています。涼しく過ごすためには半分以上が葉で覆われている状態の「緑被率」を70%以上に目指すことだそうです。水・肥料を適切に与えるほか親づるの先端を切る「摘心」、つるをネットにからめる「誘引」も大切だそうです。

<http://funtoshare.env.go.jp/green/>

<p>緑のカーテンで涼しく過ごそう</p> <p>直射しのエネルギーをカット 葉からの蒸散で熱を奪います *家の周りの温度も抑えます!!</p> <p>アサガオの種が入っています。</p>	<p>6月は環境月間です</p> <p>人といきものが共生する未来へ</p> <p>地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化防止、持続可能な社会づくりの ため、新しい環境政策の推進及び市民参加の 環境月間の25事業が実施されています。</p> <p>環境月間 一斉行動週間 6月1日(木)～7日(水)</p> <p>研究会は一斉行動週間の設定し ノーマーカー・ライトダウン、 空想的な環境月間推進活動を 広く呼びかけます。</p> <p>詳しくは研究会の ホームページで</p>
---	---

研究会の年間計画は事務局会議で詳細を詰め具体的な対応へと進められています。5月16日の事業所代表者全体会、7月6日・7日の環境内部監査員2015年版規格対応研修、南信州いむす21の審査・訪問支援など、メールでの通知もしていきますが、研究会ホームページには詳細が決定次第を載せていきます。それぞれ予定し、ご確認ください。

環境内部監査員
ISO 14001:2015年版
規格対応研修
7月6日(木)・7月7日(金)
13:00～17:00 8:30～12:30
飯田市役所C棟3階



【ご意見、お問合せ】、【配付連絡】
沢柳俊之(多摩川精機㈱) 研究会事務局
toshi.yuki-sawayaragi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会事業所代表者全体会 5月16日(火)市役所で



地域ぐるみ環境ISO研究会の参加事業所の事業所代表者全体会が5月16日(火)10時から飯田市役所で43人が参加して行われました。関重夫研究会代表(多摩川精機株式会社代表取締役社長)は会議の冒頭の挨拶で次のように語りました。

研究会の代表を受け継ぎ、初めての代表者を迎えて重い責任を感じている。この研究会は、COP3で京都議定書が採択された20年前に発足した。20年が経過し2015年にはCOP21においてパリ協定が採択された。この採択は京都議定書以来の国際合意で大きな意味がある。この研究会との巡り合わせも感じる。

マイクロソフトのビルゲイツが「2030年には必要な電力を風力発電等の再生可能エネルギーで賄うだろう」と予言しており、脱炭素の実現は目前であると感じる。プラグインハイブリッドや電気自動車のセンサを飯田で生産することの意味は大きい。現在、人手不足が叫ばれているが、将来的にはAIやロボットが普及し、人手不足を緩和し私たちを取り巻く世の中は大きく変化をしていくと思う。

この研究会は地域に根ざす「草の根」の活動として、色あせないよう、社会の変化を捉えていくべきである。また、誰かが引っ張らなくては進まない活動ではなく、市民が率先して動く市民運動への転換が必要となっている。未来を見据え、子供たち、若い人たちにとって素晴らしいまちを残すために、この研究会の活動が新しい道を切り開いていくことを期待している。



研究会の活動の総括 活動の方向性を審議

事業所代表者全体会では代表者、実務者交替の報告に続き、事務局から活動経過を報告しました。今回は2016年12月13日に実施の研究会20周年記念式典とし会議を行わなかったため前々回(2016年4月19日)の代表者会以降の活動報告です。続いて次の10の内容について審議・報告がされました。

- ① 健康講座の紹介
- ② 研究会設立20周年記念事業「環バック」の総括
- ③ 温室効果ガス削減プロジェクト(「いいこすいいだプロジェクト」)
- ④ 「南信州いいむす21」の現状報告と今後の取組み
- ⑤ ISO 14001:2015年版内部監査員養成講習会
- ⑥ 一斉行動週間の取組み
- ⑦ 2017年度の事業計画
- ⑧ 会計報告、監査報告
- ⑨ 温室効果ガス排出量の集計報告の依頼
- ⑩ その他
 - ・21'いいだ環境プラン
 - ・アサガオ種の配布
 - ・段ボール製品の紹介



飯田市の保健課から健康講座の紹介がされました。飯田市にとって健康と環境は両輪の活動、積極的に取り入れたいものです。今春、地域内の8高校を卒業した1,500人余に贈呈したエコバッグ「環バック」の総括。費用・時期・方法など改善の余地はあるものの継続意見があり事務局で検討していくことになりました。この取組みは広く捉え様々な活動と組合せ、若い人に帰ってきてもらえるような魅力あるまちに繋がるよう考える必要があります。

2010年9月に発足した温室効果ガス削減プロジェクトは活動で得たノウハウを活かし「南信州いいむす21」のシステム変更を引き継いで活動を修了することになりました。

2つの研修と一斉行動 環境づくり県民会議表彰

「南信州いいむす21」の認証登録事業所は2017年5月11日現在で49事業所。更新期限が切れている事業所が11あり、広域連合の登録から外れました。登録事業所の減は実態の数字。6月には研究会参加事業所が13の班に分かれて訪問支援を行うことになっています。「南信州いいむす21」の2015年版の対応でのシステム変更は運用する事業所にとってもより使いやすくメリットのあるものにすべきです。2つの研修が承認されました。

環境内部監査員

ISO 14001:2015年版規格研修
7月6日(木)13:00~17:00
7月7日(金)8:30~12:30
飯田市役所C311~C313で
申込期限⇒6月9日(金)

中小事業所で役立つ

省エネセミナー
7月26日(水)15:00~16:30
飯田市役所C311~C313で
申込期限⇒7月14日(金)

研究会が参加を呼びかける「2017年夏の一斉行動週間」は「環境月間」の6月に合わせて行います。

「2017年夏の一斉行動週間」

6月1日(木)~6月7日(水)
・ノーマイカー
・ライトダウン
・冷蔵庫内の整理・整頓
・日よけ 4つの行動です。

県内の87団体により構成される「信州豊かな環境づくり県民会議表彰」を5月15日、長野市で研究会が受けたことも報告されました。地域独自の環境マネジメントシステムの普及が評価されたものです。



【ご意見、お問合せ】、【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshi.yuki-sawayanagi@amagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iidac.nagano.jp



シチズン時計マニュファクチャリング(株) 副工場長 光澤和晃 氏

皆様こんにちは、シチズン時計マニュファクチャリング株式会社飯田工場の光澤和晃と申します。



今年4月から飯田工場へ異動になりました。シチズン平和時計から新会社設立された当時から飯田の地を離れ所沢工場に勤務しておりましたので約4年ぶりに戻ってきました。離れたことであらためて飯田地域の素晴らしさが実感できました。豊かな自然、山々の雄大さ、歴史ある街並み、水の美味しさ、コミュニケーションに溢れたこの飯田で、これからは地域ぐるみ環境ISO研究会の活動に参画させていただきますのでよろしくお願い致します。



我社の紹介をします。社名の通り腕時計を製造している会社です。その中で飯田工場は68年の歴史ある最も古い工場、腕時計用の機械式ムーブメントと高級品腕時計の主力組立を担っている工場です。工場内の南信州高級時計工房では、マイスター(卓越した技能者)が小さな部品ひとつひとつ手組立する一方、自動ラインでは自社製組立機をフル活用して秒刻みで組立しています。

このように手組立と自動組立ラインの2本柱とその融合で高品質な製品を提供し続けています。この高い製造技術力が求められる役割から、昨年発売された世界最薄のソーラーセル腕時計「エコ・ドライブ」(ムーブメント厚1ミリ)限定モデルも飯田工場が手掛けており、メイドイン飯田の腕時計となっています。

「市民に愛され市民に貢献する」 自然・環境に調和した飯田

当社の環境取組としては「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念に基づき、世界の人々と地球環境に配慮した事業活動を通じて、人々が心豊かに安心して暮らせる持続可能な市民社会に貢献する環境基本方針を推進し環境に配慮した生産活動に努めています。飯田工場もこの環境基本方針を受け、継続してグリーンファクトリー化を推進し、「電力量削減・CO2削減」、「公園工場化活動」、「地域社会貢献活動」等に取組んでいます。

「電力量削減・CO2削減」では、LED化へ生産現場全面切替を目指し、日常的消エネ(節電)活動の継続、設備効率運転化等々強力に進めています。「公園工場化活動」では、お客様・従業員が癒される工場を目指し、従業員による敷地内の整備・植樹・グリーンカーテン等々を行っています。今では敷地内に四季折々の花が咲き、緑であふれています。また敷地内で収穫したりんごは、社員食堂にてデザートで食したり社会福祉協議会へ毎年寄贈して大変喜ばれています。

「地域社会貢献活動」では天竜川環境ピクニックや工場周辺美化活動へ多くの社員が毎回参加しています。地域の子供を対象とした飯田市スーパーサイエンス親子腕時計組立体験教室開催や地元学生支援とした中学生の職場体験実習受入・養護学校技術講習会を毎年実施しモノづくりの楽しさを感じていただいています。地域によって活動内容が若干異なりますが、環境に対する取り組みが日本中にあるシチズン時計の各工場でも活発に実施されています。

最後に、地域ぐるみ環境ISO研究会の今後の様々な環境改善活動に向けて皆様と一緒に取り組んでいき、自然・環境と調和した飯田づくりに協力していきます。



「夏の一斉行動週間」 「第9回竹宵まつり」も

6月1日から「環境月間」が6月1日から7日まで、研究会の呼びかけにより「2017年夏の一斉行動週間」が始まっています。今年度初めての「一斉行動週間」の取り組みは①ノーマイカー②ライトダウン③冷蔵庫内の整理整頓④日よけの4項目です。多くの事業所、皆さんの参加と取り組みをお願いします。



明日、6月3日(土)は「第9回竹宵まつり〜100万人のキャンディライト in 南信州〜」。うるぎ星の森オートキャンプ場とりんご並木を会場に行われます。飯田りんご並木では15時から21時頃までさまざまなイベントが行われます。19時半には街路灯や商店の照明が一斉にライトダウンされ、竹宵の灯りのもと、コンサートや人形芝居も演じられ環境のことを考えます。



地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」には、初級・中級・上級・ISO14001南信州宣言の4つのレベルがあります。

6月1日、上級からISO14001南信州宣言へのステップアップの審査が行われました。事前に提出された環境マニュアルや規格との対比表などの検討準備を踏まえ、9時から16時半まで審査が行われました。担当したのは環境マネジメントシステム審査員資格を有する研究会の2人の実務者でした。

運用する事業所にとってより使いやすいシステムへの改善をめざし、双方での検討が深められました。

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
toshi.yuki-sawayaragi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshi.aki@city.iida.nagano.jp



第9回「竹宵まつり」

100万人のキャンドルナイトin南信州



6月3日(土) 第9回「竹宵まつり」
「100万人のキャンドルナイトin南信州」が「りんご並木」どうろぎ星の森オートキャンプ場」を主会場に行われました。私たち地域ぐるみ環境ISO研究会も実行委員で参加しました。「蜜ろう」で作られたりんご型のろうそくを本部テントで販売したり竹宵に点灯したり午後3時からの会場準備と9時頃からの片付け、翌日の清掃まで、Hさん、事務局と一緒にイベントを満喫、大活躍でした。



6月の国の「環境月間」に合わせ研究会の呼びかけにより6月1日から7日まで2017年夏の「一斉行動週間」の取り組みが行われました。
①ノーマイカー②ライトダウン③冷蔵庫内の整理整頓④日よけ
いま、その取り組みの報告書が集まってきていますが報告が早い事業所は毎回早いので驚きです。



その報告書に「6月3日の竹宵まつりに参加をされる方もいて、イベントに合わせた期間設定はよかったと思います。」といった感想も寄せられています。売木村でのイベントは初めて300人を超えたという一方、並木への参加者はカウント方法が昨年と違ったようで少し減っているとのことでした。

2017年夏の「一斉行動週間」 寄せられた取組・意見

いつも報告の早い事業所からの現時点での集約です。まだまだ少ないながら、数字とともに寄せられた取組・意見の中から「！」と感じたものいくつかを紹介します。これは一斉行動の取り組みというより、ライフスタイルそのものです。キャンドルナイトに合わせ初めてのライトダウンの取り組み、実施された回数を人数で割ると2.9回。いつもより早めの消灯や就寝、省エネだけでなく健康にもいい？

事業所数	17	事業所
取組人数	631	人
ノーマイカー	546	回
ライトダウン	1839	回
冷蔵庫内の整理整頓	483	台
日よけ	606	所

- マイカー帰宅時に買い物を済ませることにしています。
- 帰宅後、買い物をする際は徒歩で行くようにする。
- 車の運転時に、いつもより車間を多めにあげアクセルを踏み込まないように流し運転にしました。
- お風呂は続けて入れる時間帯で作ります。
- 風呂に入る直前に沸かし、続けて全員が入る。
- エアコンを使用せず、うちわを使用する。
- 廊下の照明をこまめに消したり、居間の明るさを落とすなど、これからも続けていきたい。
- 電力デマンドを使い電力上限を50kWhに下げる契約するために取り組んでいる。昨年は猛暑のため断念したが今年は再挑戦！
- 休日に子どもと一緒に、窓辺に日よけ用のゴーヤを植えました。
- 日よけを早めに取り付けた。
- この一斉行動のおかげで、エコ活動ができました。
- 今回の活動にあわせて社内で、環境についての話題が聞かれました。
- 心掛けができるきっかけにもなり、とてもよい行動週間になったと思います。
- 冷房などを使う前に、保冷剤を使い、暑さ対策をする。

環境内部監査員 新規研修 自然・環境に調和した飯田

環境内部監査員
ISO 14001:2015 年版
規格対応研修
7月6日(木)・7月7日(金)
13:00~17:00 8:30~12:30
同じ内容を2回、どちらかに参加を
飯田市役所C棟3階
参加費 1000円/人
(資料・修了証付)

7月6日(木)・7日(金)の環境内部監査員2015年版規格対応研修、研究会が主催するものです。ISO 14001 環境マネジメントシステムの2015年版規格への移行には、内部監査員も新規規格対応の研修を受講していることが求められます。

研究会参加事業所や南信州いいむす21取組事業所以外でも参加できます。申込期限までに多くの参加申込がありましたが、まだ受け付けています。参加希望される方は研究会ホームページをご覧ください。



研究会参加事業所や飯田市役所総合窓口等でグリーンカーテンを広めようとアサガオの種を配布しています。14日には、国際協力機構(JICA)の地方自治研集で来日しているアジア・アフリカ14か国・16人が防災をテーマに飯田市役所を訪問。その帰りに持っていったそうです。



【ご意見、お問合せ】、【配信解除】
福岡健志(多摩川精機株) 研究会事務局
takeshi-fukuoka@amagawa-seiki.co.jp
小林敏如君(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp